

福岡 ATMC、福岡航空交通管制部 見学会 参加報告

1. 開催日時

2019年11月1日(月) 15:00~17:10(計画時間を40分オーバー)

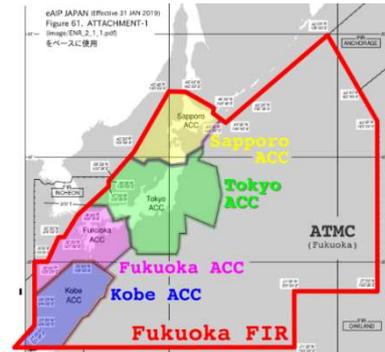
2. 見学先

見学会：福岡 ACC 及び福岡 ATMC

3. 見学会参加者(引率を含む)：21名

使用事業及び自家用：約10人

エアライン関係：約9人(東京、名古屋等)



4. 見学会内容

福岡 ATMC : フローコントロール、訓練空域調整他

福岡航空交通管制部：福岡 ACC、洋上管制部他

5. 見学先概要

両施設共、福岡 VORTAC (DGC) に隣接した敷地内に設置されています。

ATMC :

ATMC は、ICAO の新 CNS/ATM 構想に基づく航空交通管理 (ATM) を着実かつ効果的に推進するため、ATM の主導的な役割を担う中核組織として 2005 年に設立されました。

空域の有効利用を図る空域管理、交通量の調整等により円滑な航空交通を形成する航空交通流管理及び新技術を活用した管制業務を総合的に連携して、航空交通の安全確保と航空交通容量の拡大を図るもので、今後も中長期的な機能向上が計画されています。

現場には、管制官、情報官、気象庁、防衛省、米軍が配置されており、悪天候時等はスムーズな調整が可能となっています。

所謂、管制の現場のように通信(会話)があるのかと思っていたのですが、非常に静かな環境で淡々と作業が行われていたこと及び、緊急用 HOT ラインとして、「テポドン」用の電話が設置されていたのが非常に印象的でした。

尚、航空会社からの調整依頼の電話も、ここに繋がります。

福岡 ACC :

福岡 ACC が管轄している空域は、中国地方の半分と四国九州地方全域で、ほぼ全ての県に国が管理する拠点空港があり、関西空港や大阪空港のような大規模空港から、福江空港のような離島空港まで様々な空港を管轄しています。

又、北は韓国、西は中国、南西は台湾の管制機関が管轄する空域と接しているため、これらの外国管制機関と専用電話を使用して調整していることも大きな特徴です。

通常業務のみならず、イレギュラー時も日本語が通じないため、英語での調整はストレスが大きいと感じました。

2020年1月上旬に新しい管制卓へ入替があるため、勤務終了後は、管制官各自、自習しているとのことでした。

このため、レイアウトも一部変更されるとのことです。

6. 見学会成果

質疑が非常に多く、当初の見学時間（15:00～16:30）を40分オーバーしたことは、見学者達の学習意欲が高まった証であり、一定の成果はあったものと考えます。

7. その他

写真撮影は厳禁だったため、写真の掲載はありません。

以上